

## 会 議 録

会 議 名	令和4年度第2回3市ごみ減量推進市民会議		
事 務 局 (担 当 課)	小金井市ごみ対策課、日野市ごみゼロ推進課、 国分寺市ごみ減量推進課		
開 催 日 時	令和4年11月24日（火）午後2時00分～3時45分		
開 催 場 所	日野市立石田環境プラザ2階集会室		
出 席 者	委 員	<出席者：15名> （学識）宮脇委員長 （日 野 市 委 員）加納委員・小野寺委員・高松委員 （国分寺市委員）八ツ藤委員・石垣委員・佐藤委員 （小金井市委員）橋本委員・林委員・齋藤委員・續木委員 （行政）高尾委員（日）・栗原委員（国）・今井委員（小） 西村委員（浅）	
	事 務 局	日 野 市：高橋課長補佐・山口主任 国分寺市：永沢係長 小金井市：高田係長・府川係長	
欠席者	伊藤委員（日野市委員）森田委員（国分寺市委員）		
傍聴者の可否	可	傍 聴 者 数	3人
会 議 次 第	1 小委員会からの中間報告 (1) 情報発信・環境学習グループ (2) 減量グループ 2 その他 3 閉会		
会 議 結 果	別紙審議経過のとおり		
提 出 資 料	別添のとおり		
そ の 他			

宮脇委員長	<p>それでは、これより3市ごみ減量推進市民会議を進めてまいりたいと思います。</p> <p>会議を始める前に、傍聴の有無について事務局より報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日は、傍聴を希望の方がおられますので、よろしければこの後入れさせていただきますと思います。よろしくお願いいたします。</p>
宮脇委員長	<p>この会議は、原則公開となっておりますので、傍聴者の方にお入りいただきたく思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>次第の1番ですけれども、小委員会からの中間報告という内容となっております。グループ別ということですので、まずは情報発信・環境学習グループの方から報告をお願いいたします。</p>
八ツ藤委員(国)	<p>情報発信・環境学習グループの中間報告をさせていただきます。</p> <p>配布資料の「情報発信・環境学習グループ(情報グループ)中間報告」をご覧ください。</p> <p>まず初めに、1. 情報グループ会議の開催状況でございます。7月26日に開催した全体会の中で開催しており、その中で、グループリーダー及びサブリーダー2名の選出を行いました。</p> <p>次に、我々のグループで何を検討するかということですが、前期の本グループにて提案しております、小学生向け見学者用の副読本の編さん、この実現に向けて、内容等を最優先で検討をするということを決めました。また、行政委員の方からも、浅川清流環境組合にて作成費用の予算措置を行う旨を確認しており、情報グループに対しては、その内容について検討してほしいという旨の発言がありました。</p> <p>そして、事務局側に対して、次回の情報グループ会議までに、教育委員会が作成している3市小学4年生用の副読本の用意及び多摩地域に広域で行っている廃棄物処理施設が複数ありますので、そこで発行しております児童向けの見学の手引き収集を依頼しました。</p> <p>続きまして、8月24日に第1回の情報グループ会議を開催しました。前回事務局に依頼していた3市の副読本及びこれは多摩地域8施設の廃棄物処理施設が発行しております児童向けの見学の手引きの提供がありましたので、リーダーの私が内容を比較し、第2回の情報グループの際に比較表を委員の皆さんにお配りをしております。</p> <p>次に、新たに作成する見学の手引きについてイメージ合わせを行いました。これまで本会議では副読本という呼び方をしておりましたが、副読本は学校教科書の補助的な教材という意味づけとなっておりますので、今回情報グループにて作成しようとしているのは必ずしもそれに該当しないということで、今後は仮称とはなりますが、見学の手引きという呼び方をさせていただきますと思っております。</p> <p>また、7月に浅川清流環境組合に対して、令和3年度と令和4年度の見学実績、組合側にて説明する内容、児童側からの質問内容等を情報グループとして質問をし、8月初旬に回答をいただきましたので、情報グループ会議にて紹介させていただきました。</p> <p>作成費用については、浅川清流環境組合にて令和5年度予算に計上することを確認しました。</p> <p>続きまして、10月26日に第2回の情報グループ会議を開催しまし</p>

た。冒頭行政委員より、先ほどの組合予算について、積算根拠となる資料について説明をいただきました。ここには、副読本の大きな内容とそのスケジュール案が記載されており、ページ割とか内容等について、大まかに記載してありましたが、多少考え方に相違がありましたので、これについては変更が可能かどうかということを確認したうえで、現在、検討しているところです。

それから、本日提出しております資料の素案について、各施設の状況、3市が発行している副読本等を参考にしながら私の方で作成しましたので、各委員からの意見交換を行った後に一部修正いたしました。

2. 小学生向け「見学の手引き」(仮称)の作成をご覧ください。次ページに資料1、資料2を添付しておりますので、これから説明させていただきますが、この後、皆様よりご意見等をいただき、骨格を固めていきたいと思っております。

次ページの資料1、1.「見学の手引き」の作成理由をご覧ください。皆さん御存じだと思いますが、小学校4年生は、総合的な学習の一環として、ごみの処理と再利用の授業を1学期から2学期にかけまして、大体10数時間受けております。この授業の一環としまして、浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設の見学を実施しているという状況となっております。しかし、直近2年間は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、市によって見学状況にばらつきがあることから、コロナが終息すれば、3市の大半の小学校が施設見学を行うのではないかと考えております。

(3) 浅川清流環境組合作成の見学児童用パンフレットについては、本日委員の皆様にお配りしている資料です。こちらを御覧いただきますと、表紙があり、次のページでは見開きで施設の工程が図で描いてあり、最後のページでは3Rの説明を記載しております。また、学習用なのでメモ欄もあります。

以上、4ページの資料となりますが、情報グループとしては、例えば、3市共同処理の目的、焼却後の灰の処理等は資料には記載していない。また、熱を利用して発電しているという状況、公害防止、環境対策等の説明もなく、ページ数の制限もありますが、学習の教材、補助教材としてはやや不十分ではないかと考えております。

従いまして、施設の説明の他に、共同処理の目的、3市のごみ資源物の処理の流れ等の3市共通のごみの課題等も織り込んで、学校の学習の補助教材としても利用できるような見学の手引きを作成しまして、見学児童に配布したらどうかと考えております。

2. 「見学の手引き」の概要をご覧ください。概要については予算との関係がありますので行政側からの説明を踏まえた上での内容となっております。まず、(1) 編集・発行ですけれども、「見学の手引き」の編集・発行は組合とし、内容につきましては、3市及び市民会議の意見も考慮していただきたいと思いますと考えております。

(2) 仕様ですが、ページ数は12ページとしてA3用紙2枚折り3枚を予定しております。紙質は再生コート紙、印刷色はフルカラー、印刷部数は、当初1万部として、これは2、3年分に該当し、以降数年ごとに内容を改訂していったらどうかと考えております。参考と書いてありますが、今年度の3市の小学校4年生の児童数及び引率の先生も入れた場合は、最大で約3,600人と認識していますので、その分は考慮する必要があると思っております。

(3) 配布対象ですが、当然のことながら、この施設に見学した児童や

引率者には全員に配布し、それ以外の見学者にも希望者には自由に持ち帰れるようにしたらどうかと考えております。

それから、(5) 作成のスケジュールです。案なので前後する可能性もありますが、今年度中に作成目的の設定、基本コンセプトの策定として骨組みの部分は年内に固めます。その後、1月から3月で具体的な内容等を固めまして、4月、5月ぐらいの間に印刷業者の選定をして、編集・校正作業をする予定です。半年かぐらいは掛かり、また、校正については2回程度必要であると聞いております。10月に印刷、11月に納品。配布の開始は令和6年の1月ぐらいを想定しています。ただし、小学校4年生の団体見学は毎年6月から12月にかけて行われますので、新しい「見学の手引き」をお配りするのには、再来年の6月ぐらいかと予想しています。

3. 「見学の手引き」の基本コンセプト(案)では、施設見学の説明資料にするとともに、児童が持ち帰って補助教材としても利用できるような内容にすること、施設の説明以外に3市の事、共同処理の目的、ごみ資源物の処理の流れ等を記載して、他の市の事についても関心を持ってもらえるような内容にすること、ごみ処理が多数の人によって行われ、施設周辺の人たちの理解で成り立っていることを理解し、ごみの流れを理解することにより、自分の責任、それから、周りの人への感謝の気持ちを醸成していきたいという思いがあります。

また、各市の副読本には記載のない世界的な課題である食品ロスやプラスチック問題を取り上げて、自分達に何ができるかを考える動機付けにしたらどうかと考えており、小学生もSDGsを学習しておりますので、自分たちで考えていく一つの手がかりになるのかなということ、施設見学の延長線上ということ、膨らまして提起させたらどうかということ、と考えております。

(6) は、ごみ・資源物量等の計数について、ここは毎年変わりますので、A4サイズ1枚ぐらい挟み込み方式で直近の数字を載せていくか、また、情報グループの委員から提案がありましたが、QRコードを表示し、そこから読み取れるようにしたらどうか。大変いい提案だと思いました。

4. 「見学の手引き」の内容(案)では、資料2をご覧いただきたいのですが、12ページを考えておりますので、ページ割で左側より項目、中間が内容、右側が備考欄となっております。

表紙ですけれども、「見学の手引き」(仮称)の名称となり、施設の写真、組合のマーク、3市の略図等、様々なデザインを考えることになると思いますが、表紙となります。

それから表紙裏ですが、ここには、「はじめに」ということで、共同処理の目的、3市の連携、手引きの活用方法等で半ページ、その下に目次を設けます。あとは、各市異なる名称については、可能な範囲で用語の統一を行います。

2ページでは、3市の紹介、人口、世帯数、市の歴史、市の目指す姿減量キャラクターをイメージしています。3ページから4ページは見開きで3市のごみ処理の流れです。各市工程に違いがあると思いますが、児童にはやり方が違うことを知るのはいいことではないかという意図がありました。その他、車のデザイン指定収集袋等も違いますので、それらも記載したらどうかということ、

5ページから7ページ、こちら、可燃ごみ処理施設の紹介ということ

で、今はこちら、先ほど御覧いただいたパンフレット2ページ分に1ページ増やして3ページとし、施設の役割、焼却処理の工程図、それ以外の部分も膨らましながらいれ込み、また、児童からの質問が多い項目も取り上げて、コメントというか、囲み式で入れたらどうかと考えております。

8ページ、これは二ツ塚最終処分場の紹介として、副読本でも市によっては紹介しているところもありますが、浅川で焼却後に灰が残りますので、灰の処分について説明した方がよいと思っております。

9、10ページは、食品ロス、プラスチックの問題ということで、非常に大切な問題ですので、子供たちにもぜひ関心を持ってもらいたいというところです。

それから、裏表紙です。これは、分別や資源循環についての理解を深める狙いとして、リサイクルで何に生まれ変わるかということを図で表現したいと考えております。全体像は以上となりますが、年内までにはある程度固める必要があると思っております。

3ページに戻りますが、一番上のところに「見学の手引き」の名称の検討についてとありますが、何かいい名前があればぜひ提案をしていただければと思います。また、副題みたいなものを入れたらどうか思っており、これからの目指す姿みたいなのところを、子供たちと一緒にやろうというような形をイメージしております。

最後に参考として、直近の小学校4年生の団体見学の状況でございます。日野市は小学校全17校の内、令和3年度は3校、令和4年度は2校、国分寺市は小学校全10校の内、令和3、4年度ともに10校、計画的に教育委員会が旗振りを行っている状況です。小金井市は小学校全9校の内、令和3年度は1校、令和4年度は2校となっております。今後新型コロナウイルス感染症がある程度終息してきたときにどうなるかですが、小金井市及び日野市の副読本を見ますと、施設見学について呼びかけているので、終息後は増加するのではないかと考えています。以上、長時間になりましたけれども、情報発信・環境学習グループからは以上となります。

宮脇委員長

それでは、ただいまの報告につきまして、質問がありましたらよろしくお願ひします。なお、質問だけでなく、先程説明がありましたが、冊子名の提案等もありますし、また、こんなことを追加してほしいとかぜひ御意見を出していただきたいと思ひます。発言の際には、議事録を作成しますので、発言の前にお名前をお願ひいたします。

林委員（小）

各市の副読本を実は1度も見たことがないのですが、今回のテーマは見学者用と理解しています。従いまして、施設見学に来た際に見るものであるとイメージしていたのですが、最後の方の説明では、ごみ処理問題全体、ごみ・資源物のゆくえ等、全体を網羅した資料になるという印象を受けました。そうすると、現在各市が用意している副読本とどの程度の違いがあるのか伺いたいのが1点目です。

2点目は、見学者用の冊子を作った場合、これを用いて誰が説明することになるのでしょうか。例えば、浅川清流環境組合のパンフレットを見ますと、施設運営している職員の説明用のパンフレットでもあると思ひます。先ほどの説明では3市の事もあり、かなり広い範囲を網羅している。見学時間との関係もありますが、どういう形での活用方法を検討

<p>宮脇委員長</p>	<p>しているのか伺います。</p> <p>3点目は、活用の仕方なのですが、聞いたところによると、小金井市では意欲のある先生がいるクラスは見学に行く聞いており、ばらつきがある。国分寺市のように教育委員会が中心と取り組むことにより浸透してくるものと思っている。したがって、活用するための前提条件を同時に整理していく必要があると感じました。</p> <p>ありがとうございます。特に3点目ですが、新型コロナウイルス感染症以前に、市によって積極性が異なる状況があるということですね。</p>
<p>林委員（小）</p>	<p>ご指摘のとおりで、学校の先生頼みではなく、取組を少し変えなければいけないという気がしています。</p>
<p>八ツ藤委員（国）</p>	<p>先程の質問ですが、副読本の1つは東京都が作成しているものと思います。しかし、ごみ処理については各自治体により異なることから、一般論がメインとなっております。</p> <p>また、3市の教育委員会が作成していると思いますが、副読本を小学校3、4年生の社会科用で作成しております。各家庭から排出される所から処理までの流れについて、内容量は各市によって異なりますが、小金井市と日野市は10ページ、国分寺市は4ページとなっております。</p> <p>大前提として、国語等の科目と異なり、総合的な学習の一環として、例えば、ごみ問題については、基本的には子供たちが考え、調べ、まとめさせてうえで、先生がアドバイスする、その中で、こういう問題があるからみんなで調べてみようとか、あそこへ見学に行ってみようとか、そういう流れになっており、基本的には各学校に委ねられております。</p> <p>国分寺市の場合、これまでは市内に可燃ごみ処理施設があったことから、徒歩等で移動手段に困ることがなかったが、現在は距離の問題があることから、バスの手配や日程調整等、教育委員会が中心となって行っている。日野市、小金井市ともに教育委員会の介入度合いにより学校数が増加するものと思います。</p> <p>次に、各市が用意している副読本との違いについてですが、副読本のプラスアルファとしての活用です。その中で、施設の説明の他に3市共同処理の目的、3市のごみの流れ、さらに、SDGs等の付加価値を設けることにより、児童が他市の状況を理解することにより新たな問題提起にもつながり、また、SDGsも学習していますから、食品ロスについて調べて見ようとか、先生の指導方法にもよるのですが、発展してもらいたいという思いがあります。</p>
<p>林委員（小）</p>	<p>今回作成するものが現在の副読本に代わるものにはなりませんか。3市がそれぞれ作成している副読本ではなく、共通の副読本として全員にそれが配られ、また、施設見学の際にも使用するような取り組みにはならないですか。</p>
<p>八ツ藤委員（国）</p>	<p>統一的となると東京都の冊子を使用するということになります。先ほど申し上げたように、可燃ごみ処理施設として3市共同処理を行っていますが、それ以外の資源物の収集や他施設の有無等、各市違いがある。従いまして統一することは多分できないだろうと思います。</p>

林委員（小）	行政側の意見を伺いたいと思います。
事務局	<p>副読本は教育委員会側で独自に編集等を行っており、そのような話し合いができていない状況である。議題として持ち込むためには、総合教育会議等の別の会議体を使用していく必要があると思います。</p> <p>しかし、今回の情報グループにて検討している中では、極力内容が重複しないようというのは意思の共有ができておりますので、その点については注意を払っていけるものと思っております。</p>
林委員（小）	<p>施設見学の人に限定して配布した際に、3市全体の説明は難しいと思っている。そうすると、理解していただくのに、まずは、どのぐらいの人に来てもらえるのか、また、自宅に持ち帰り確認することとなるが、説明し切れない部分を持ち帰って勉強してもらえるのか疑問が残る。</p>
八ツ藤委員（国）	<p>まず、今回作成する冊子については副読本ではありません。副読本というのは、教科書に附属した補助教材という位置づけとなっております。今回はそこを目的としておりません。もちろん総合的な学習ですから教科書はないのですが、各市の副読本はもう既にありますので、それを一緒にするのではなく、現在の施設見学用パンフレットより充実したものを作成することとなります。</p> <p>しかし、林委員の意見のとおり、実際は施設見学を実施する学校実施しない学校が出てくる。浅川清流環境組合の費用を用いて作成したものを施設見学時のみではなく、見学しない学校についても総合的な学習の中で教材の1つになると判断されれば、配布依頼が来る可能性があるのではと思っております。</p>
宮脇委員長	<p>大変深い議論となっており、興味深く聞いておりました。作成している部署が違うこともあり、共通化を図る際にはこのような話は結構あるのではないかと考えております。施設見学自体が、昔は社会の授業の一環として、社会システムの中にこういう基盤があるという教育がなされていきましたが、ただ今の議論のように、現在の環境問題については総合学習の時間で取り上げています。これは小学校のみではなく、中高も少しずつですが、生徒が自主的に学ぶための授業を増やす取組が広がっています。様々なテーマを探し、それから、資料収集においても、インターネットにはたくさんの情報がありますが、生徒に教える際には、要点整理された資料を教員が作成するのは負荷が高いです。その点は教員全体に共通しているだと思います。</p> <p>そのような点を踏まえると、今回の取組は小学校の先生にとってはむしろありがたいのではないかと。もし、環境問題の中で資源循環の部分について生徒に何か行うときには非常に良いし、児童も、日本全体の話よりは、自分が住んでいる所の話を書いてある方がよいと思います。</p> <p>先ほどのご意見のとおり、施設見学を行う学校が先生の意欲によって差が出るというところは問題があると思いますが、やはり小学生が理解しやすいような良い資料ができると、先生方も使いたくなるのではないかと思います。ぜひ、行政側からも副読本の参考資料として周知していただくと、広まっていきそうな感じもします。</p>
小野寺委員（日）	ごみ処理やごみ問題について非常に網羅的に盛り込まれて勉強して

	<p>もらうための資料としては非常に良いのではないかと思います。</p> <p>タイトルが「見学の手引き」となっていますが、施設見学の場での説明資料ということ、そして、学校で勉強するための資料でもあるならば、「ごみ処理の手引き」とか、そういうタイトルの方が良いのではないかと思います。そして、この中で見学の場で説明する部分というのを明確にするために、他の部分と区別できるような形で編集した方がよいと思います。</p>
八ツ藤委員（国）	<p>資料2、小学生向け「見学の手引き」（仮称）の内容（案）の中で、5から7ページの部分を網掛けで表示しているが、こちらが施設の紹介となっており、見学に来た児童にはこの箇所を浅川清流環境組合の職員が説明することになると思います。しかし、「見学の手引き」となると、冒頭部分の方がよいかもしいないが、細部については今後検討していく予定です。</p> <p>タイトルについては、子供が見たときにまずは表紙を見るので、引きつける意味でも非常に重要だと思っており、ぜひ皆さんのご意見をいただければと思っています。</p>
宮脇委員長	<p>タイトルについて、確定するのはもう少し先となりますので、本日、これ以上意見が出なかったとしても、後日でも結構ですのでご提案いただければと思います。「見学の手引き」となると、今回の報告内容を確認する中では範囲が広がっており、確かに総合学習の資料としては使用しにくくなるかもしれません。</p>
高尾委員（日）	<p>今回、本市民会議は第3期に入り、今期については減量グループも同様ですが、内容を決定し実施していくことがメインだと認識しており、今回の報告を受け、非常に議論されている印象を持っております</p> <p>副読本については、3市ともに主語は日野、国分寺、小金井が主語になってしまうので、やはり学校で使う副読本とは別に、今回の冊子のように主語が3市として作成するのは大変良いと思います。</p> <p>少々余談となりますが、日野市では、明星大学の学生がデザインしたレジごみ袋を作成しました。参加いただいた15名の学生は住んでいる自治体によってごみに対する考え方が異なる方々でしたが、日野市在住の方が1名おり、これまで日野市において実施してきたごみ減量施策を把握していたことから、どこの自治体でも同様な事を実施しているものだと思っていたとのことでした。</p> <p>3市の事を互いに知ることは、とても大事なことであると考えており、3市で今回のような取組を継続的に実施していくことにより、今回の手引きを使用していく中で3市の児童にとってこれが当たり前になっていけばよいと思っています。</p> <p>このような取組の浸透により、副読本の方も変化していくのが良いと思います。</p> <p>このような話を踏まえてタイトルの話になりますが、例えば、「考えてみよう、私達の町のごみについて・・・」等の語りかけるようなタイトルの方が、児童が見た時に興味を引くのではないかと感じました。手引だとマニュアルみたいで硬いイメージになってしまう恐れがあると思います。</p>



<p>續木委員（小）</p>	<p>資料2の中で、3市の紹介があり、備考欄を見ると「ゆるキャラ」と書かれてある。日野市のキャラクターを把握していないが、例えば、小金井市及び国分寺市にて使用されているキャラクター等を展開することにより、キャラクター達の命を守るためにごみのことを真剣に学び、そして、浸透していくのではないかと考えており、現在10歳ぐらいの児童が、今後、何十年も生きていく中で、心の中でそのような使命感を持ち続けてもらえるのではないかと思います。それこそが、本当お副読本の意味ではなかと感じました。</p> <p>あと、同資料の中でSDGsを考えることとして、食品ロスとプラスチックの問題を記載しており、ごみから少々逸れるかもしれませんが、温暖化の防止についても入れても良いかと思います。</p>
<p>八ツ藤委員（国）</p>	<p>ただ今キャラクターの活用が出ましたが、3市で共通のものが1つあり、それはカワセミです。このようなことも1つの話題として考えてもよいかもしれません。</p>
<p>宮脇委員長</p>	<p>ありがとうございました。他にはありますでしょうか。</p>
<p>小野寺委員（日）</p>	<p>何にリサイクルしているのかというのは盛り込まれているが、一方で、焼却処理するには資源としての活用できるものがまだまだ多く含まれており、分別を徹底し、出来る限りリサイクルして有効活用していくような視点を盛り込むべきであると思います。</p>
<p>西村委員（浅）</p>	<p>予算が絡む関係で、浅川清流環境組合より確認をさせていただきたいと思います。当組合では、予算要求に当たり、各構成市の負担金で運営している関係もあり、次年度予算の締めが自治体より早い状況です。本日の配布資料の中に、ページ数が12ページ、紙質、印刷色及び印刷部数等、大枠としては示されているものと思います。従いまして、この資料を元に、予算要求をさせていただこうと思いますので、この内容で問題ないか、この場で確認をさせていただきたいと思います。</p>
<p>宮脇委員長</p>	<p>ただ今の件は、情報発信・環境学習グループに対しての確認となりますが、今回の資料内容にて予算要求することに関してはいかがでしょうか。</p>
<p>八ツ藤委員（国）</p>	<p>皆さんの賛同があればそれでよろしいかと思います。</p>
<p>高松委員（日）</p>	<p>今回の予算の中で印刷部数として2、3年分ということですが、予算化を今後継続的に確保していただけるのでしょうか。配布次第終了ではあまり効果が期待できないものと思います。</p>
<p>西村委員（浅）</p>	<p>現時点では明確に申し上げられないが、配布枚数終了後に再度予算化するかは、今後の構成市との協議によるものと考えております。</p>
<p>宮脇委員長</p>	<p>ページ数に関しては、多すぎても使い切れないということがありますので、12ページぐらいというのは若干多めではありますが、児童が一生懸命勉強して理解を深めるという意味では、ページ数として適当であると思います。</p>

林委員（小）	<p>それでは、もしこの内容でよろしければ、引き続き、組合の方に進めただけだと思っております。ありがとうございます。</p> <p>続きまして、減量グループより報告をお願いしたいと思います。</p> <p>減量グループでは、30年後の焼却ごみゼロを目指すという前期からの目標を念頭に置いて、資料に記載の項目について検討いたしました。まず、8月30日に行われた第1回のグループ会議で、各委員によって洗い出された減量・資源化のための方策というのが2ページ目となりますが各項目のアイデア等を一覧表としてまとめております。</p> <p>次に、第2回のグループ会議が10月24日に行われました。そこで行われた会議の中身は、3枚目にごみ減量グループメモがあります。ここで細かい内容が記載されております。</p> <p>まず、1点目は生ごみ減量・分別収集・資源化について、ここでは消費行動マナーとして、3市共同のポスターを作るか検討すること、食品ロスの量、処理費用等、数値的な部分をもう少し周知するためのポスターを作るか検討すること、食品ロス削減推進協力店を市が認定していますが、これの認定範囲を拡大できないか検討すること、店舗を指定しないで、食べ残しゼロ・お持ち帰りのお勧めといったようなポップの配布を検討すること、このような内容について意見が出ております。</p> <p>2点目はプラスチックごみの減量・資源化について、ここでは、スーパーやコンビニエンスストアでは、現在プラスチックごみを店頭回収している店舗が結構ありますが、その他として3市でアプローチできていないのがドラッグストア。このような未アプローチ店舗に対しての店頭回収の働きかけができないのか、という意見が出ております。</p> <p>3点目は、紙ごみの減量・資源化について。30年後の焼却ごみゼロを目指すため、減量グループとしては何らかの紙おむつ処理の検討を開始する必要があるのではないかという意見が出ています。特に将来の方向を見定めるために、国、都の動向等について3市で引き続き情報収集を行うとしており、これは行政側よりお話が出ています。</p> <p>現在、町田市、八王子市及び東大和市において、東京都の補助金事業だと思っておりますが実証実験を行っております。本日、資料をお配りできませんでしたが、特に町田市、八王子市ではマテリアルリサイクルという位置付けでの実証試験、それから、東大和では、回収システムの実証試験であると記憶しておりますが、本年3月に終了しており、今後作成される報告書を確認しながら、今後、どういう対応を我々が考えるべきかという議論をしていきたいと思っております。</p> <p>4点目が、食品ロス削減啓発の一環としまして、市民参加型のイベントを3市共同で開催することについて、この点については行政側の委員より提案がありました。</p> <p>例えば、エコクッキングレシピを募集してコンテストを行うとか、また、削減月間に食品ロス削減をテーマに絞ったイベントを行ったかどうか、実施するならば子供達を交えてできる取組を行いたい等の意見が出ております。こちらについては、行政側の委員より、この後報告があると聞いております。減量グループからの報告は以上です。</p>
今井委員（小）	<p>ただ今、林委員からお話が出たとおり、行政側より、食品削減啓発の一環として3市の共同市民参加型のイベントに関しての検討状況について報告をさせていただきます。減量グループで議論いただいた中で</p>

	<p>は、事業者の協力を得ていくということも重要なポイントになるであろうという意見を確認しており、3市の課長にて、現在、検討を進めている状況です。入り口に立った段階ではありますが、3市にそれぞれ店舗を構える事業所として日野市、国分寺市、小金井市に店舗を有する生活協同組合、コープさんです、こちらの担当者と12月上旬に面会の機会をいただけることとなっております。</p> <p>については、SDGSの目標12、とりわけ2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の1人当たりの食料の廃棄を半減させるというところのターゲット12.3に係る施策に関心が高まってきていることの認識共有を図るとともに、エコクッキングレシピを募集したコンテストや、お子さんを交えてできる取組、親子クッキング教室ですとか、食品ロス削減月間にエコクッキングによる総菜を販売できないかなど、どのような形で企画立案が可能か、また企業側が求めている内容というのは何か、こういったものについて意見交換を行ってまいりたいと考えております。</p> <p>一定、進捗がありましたら、減量グループ、全体会を通じて進捗の報告をさせていただきたいと考えております。</p> <p>一方、ドラッグストアの方ですが、担当窓口を紹介いただける段階に至っておりませんので、再度交渉してまいりたいと考えています。行政側からは以上です。</p>
宮脇委員長	<p>ただ今の減量グループからのご報告について、質問がありましたらよろしく申し上げます。</p>
橋本委員（小）	<p>今回の資料で検討している中で紙ごみについて記載があるが、今回の会議でも多くの紙類が使用されているので、今後様々な場面でペーパーレス化ができないか、まずはこのような機会の中でアプローチし、実際の運用状況を報告することにより、ペーパーレス化が進んでいく可能性が高まるものと思っており、今後は、この部分も検討していただけたらと思いました。</p>
宮脇委員長	<p>ありがとうございます。紙おむつについては大事ではありますが、橋本委員のご意見のとおり、その他の紙類も生活の中で大変多く使用されているとおりに、今後、次のステップでの取組として記録を残したうえで、可能であれば取り組んでいただければと思います。</p>
林委員（小）	<p>今回の検討内容としては、ごみが発生したものについてどのように対応するかというのを重視した内容となっております。したがって、そもそもごみを出さないようにするにはどうしたらいいか、そのような根本的な部分に立ち戻った議論ができてないというのが実態ですので、そのような視点も含めて議論していく必要があると思います。</p>
石垣委員（国）	<p>ただ今の紙類について気になる点として、私は現在子供が2人いますので、学校からプリント類を大量に持ち帰ってきます。実際に1年経過すると10センチぐらいの紙の束になります。これをどうにか減らせないかと考えていっても良いかと思えます。あと、娘が通っている小学校はPTAがあり、最初の頃は書類が多かったのですが、会長等が紙を減らそうと改革をしました。まず、PTAは全体の会費から運用している</p>

林委員（小）	<p>ため、紙類を減らすだけでも印刷も不要となることから経費削減になる。そこでデータを作成し、メール等でのやり取りとなっているため、現在は、PTAからの書類はほとんど来ない状況となっている。行政として難しい点もあるかもしれないが、徐々にでも進めることができればよいかと思います。</p> <p>私は、小金井市で廃棄物減量等推進審議会委員及びごみゼロ化推進会議推進員となっており、事務連絡等をこれまで郵送でもらっていたのですが、できるだけメールで行うようお願いしています。やはり、そういうところを1つずつ行っていく必要があると思います。</p>
八ツ藤委員（国）	<p>食品ロスの問題ですが、恐らく多くの方は自宅内でどのような又はどの程度食品ロスを出しているのか、把握している人は少ないと思います。提案ですが、3市共同でモニターを募集し、例えば100名程度、3週間程度チェックシートに記入していただき、回収後に記念品をお渡しする等、まずは、自身がどうなっているのかを理解してもらうのが大事ではないかと思っています。</p> <p>消費者庁のホームページを見ますと、食品ロスチェックシートの雛形が出ており、ダウンロードも可能です。それを3市用に多少加工してもよいと思います。</p>
佐藤委員（国）	<p>チェックシートについて、私は3年ぐらい前から使用しております。利用方法として、当日の食品ロスとなった食品を記入し、また、それをお金に換算して金額を記入しました。大した量ではありませんが、記入することにより、買い物や冷蔵庫掃除の時に意識しますので、この意識が大事であり、やはり、何か1つの取り組みをきっかけとして他の物に連動していくのではないかと思います。</p>
宮脇委員長	<p>モニターを実施する人を探すのはかなり大変だと思いますがよい提案だとは思っており、例えば、キャンペーンとして自主参加型として3市共同で実施していく、各市内には、環境意識がそれなりに高い方がいると思います。そのような方々でも食品ロスはゼロではないと思うので、データとしては少なめなデータとなるかもしれませんが非常に面白い提案だと思います。</p>
小野寺委員（日）	<p>食品ロスにおける環境省の分類は3種類あります。1点目は食べられるのにそれを除去するという過剰除去、2点目は食べられるものを丸ごと捨てるという直接廃棄、3点目は食べ残しです。</p> <p>先日、私が所属している、ごみ・環境ビジョン21という市民団体の中で帝京大学の渡辺教授を講師に招き、食品ロスについて講演をしていただきました。その中で、まず、過剰除去について、最近ではエコッキングが話題として出てきますが、個人の価値基準に違いが生じていると聞きました。例えば過剰除去の場合ですと、ジャガイモやリンゴの皮等はできるだけ厚く剥かないようにという話が当然出てきますが、一方で、農薬の関係を踏まえるとなかなか難しいと触れています。</p> <p>また、食べ残しについては、意外と多くないようです。仮に出てきても、別の料理にリメイクすることもできますが、一番問題なのは賞味期限が到来したものを直接捨ててしまうのが大きな問題とのことです。従</p>

	<p>いまして、冷蔵庫の中身をできるだけ賞味期限が到来しそうな食品から使用していくことに気を付ける必要があるとのことです。</p> <p>今回、教授の取り組みとして、10市区の消費者に対してモニターを実施し、内容としましては、冷蔵庫に入っているものを、全部小さなカードに書き出して、それを冷蔵庫に貼って置くようです。そして、使用した食品からカードを別の位置に移すというようなことを行いました。このような取組も一つの工夫だと思います。検証結果については現在集計中とのことです。</p> <p>賞味期限については、消費期限よりも短めに設定しており、約7割といわれています。本来は賞味期限が到来しても食べられるのですが、余裕を見ている状況にあります。国では表示の説明をしていますが、この部分についての啓発を徹底させる必要があると思います。</p>
宮脇委員長	<p>食品ロスの分類を解説いただきありがとうございます。また、集計結果についても気になるところです。</p>
石垣委員（国）	<p>私の家では、冷蔵庫にホワイトボードを貼っております。現在、私と主人は別々に買物をしており、そのボードを用いて、すぐに使用してほしいもの、賞味期限が近いものを買ってきた等、早めに消費するものは全部書くようにしており、そして、使用したらそれを消していくというように実践しております。そうすると、かなり食品ロスが可視化されることにより減ってくるので、このような簡単なやり方でもいいと思います。全部貼りつけるというのはハードルが高いと思うので、ホワイトボードから始めた方が簡単だと思います。</p>
佐藤委員（国）	<p>啓発するうえで大切なことは消費期限と賞味期限が違うということをよく認識してもらい、賞味期限後は五感、自分の手、目、鼻、口で確認し、問題なさそうであれば食べても支障はないと言われていしますのでこの点と、冷蔵庫の中を常に整理すること、どこに何があるか分からないと同じものを買ってしまうこととなります。さらに言うと、お腹がすいているときに買物に行かないこと、買い過ぎる恐れがあります。あとは、割引商品に惑わされないことです。基本的なことですが、これらのことを少し意識するだけでもかなり生活が変わってくるのではないかと思います。このような話を友達とやり取りするのですが、やっぱり効果があると聞いています。</p>
宮脇委員長	<p>ありがとうございます。大変重要なお意見だと思います。まずは不要な購入をしないということがごみの減量としては大前提であると思います。また、日々の生活の中での意識の変化により、ごみ減量を通じて無駄なお金を使わない方につながるので、3市での取り組みの中で委員または公募により募集してみるとか、そのようなことも良いかと思いました。まずは、減量グループの中でアイデア出しをしていただいてもよいと思います。他はいかがでしょうか。他になれば次に入りますが、追加の御意見も随時受けておりますので、何かあれば事務局までお願いします。</p> <p>次に、2 その他に入ります。事務局より何かあるようなのでよろしくをお願いします。</p>

事務局	<p>今後の会議の進め方と次回の市民会議全体会の日程等についてお話しさせていただきます。</p> <p>本日、中間報告の中で様々なご意見が出たかと思えます。次回の全体会までに小委員会を開催していただき、意見の反映等についてご検討をお願いします。小委員会につきましては、年間で最大5回を予定しております。次回の全体会までに小委員会を開催していただければと思います。現在、情報発信・環境学習グループ及び減量グループともに2回ずつ開催しております。今年度中、残り3回を限度に開催することが可能です。まずは本会議終了後に2グループに分かれ、小委員会の日程調整をお願いいたします。次回の全体会につきましては2月頃を予定してございますので、そこで今年度分としての最終報告ということだけでいただければと思います。</p> <p>あと、情報発信・環境学習グループより、今回報告しました、「見学の手引き」につきまして、本会議終了後にご意見等ありましたら、事務局にご連絡いただければと思います。以上です。</p>
宮脇委員長	<p>ありがとうございます。ただ今の進め方についてはよろしいでしょうか。特になしということですので本会議はこれにて終了となりますが、最後に言い残したこと、また、思いついたことがあればお伺いする時間が少しだけありますがいかがでしょうか。</p> <p>本日、私もたくさんメモを取らせていただいたのですが、かなり活発なご意見が出たものと思えます。また、各グループからの資料及び説明についても丁寧に行っていただいたと思えます。情報発信・環境学習グループの方は、冊子の名称、使用方法、実際の小学校の利用状況等、様々なご意見が出ており、今後進めていくことによりさらにより成果物が完成するように思います。また、ゆるキャラの意見も出ましたが、小学生が受け入れるには有効な手段であると思えます。減量グループは、具体的な提案が出ているので、今後も行政側と委員の両方で内容を詰めていくこと、民間事業者と接触していること、また、議論の後半では、食品ロスチェックシートについて、食品ロス削減についての実践的な取組の紹介もありました。本日は、多数のご意見いただいていて、非常に有益な会議であったと感じました。</p> <p>それではこれを持ちまして、本日の第2回3市ごみ減量推進市民会議を終了いたします。小委員会2グループに分かれて日程調整等をお願いします。</p>